

3. 鹿児島港本港区エリアの新たなまちづくり まちづくりにかかる5つの方針

○方針1 賑わいや人の流れを生むしかけづくり

- ✓ 土地利用では、幅広いターゲットが訪れ、中心市街地との相乗効果を生み出すことのできる機能を導入し、賑わいの最大化を図ります。
- ✓ プロムナードやストリートファニチャー等の配置など、人が歩きたくなる取組を行います。

方針1で、ソフト面での中心市街地との関係がうたわれている一方、ハード（空間づくりの）面での中心市街地との関係は、どの方針にもうたわれていないように思いました。空間の形成についてうたっているのは方針2なので、少し文章を推敲して、中心市街地との関係を表現するように工夫してはどうかと思います。

○方針2 県民が憩い親しむことのできる空間の形成

- ✓ 本港区を訪ねる誰もが立ち寄り、本港区の賑わいの核をなす空間として、ウォーターフロントパーク^{を中心に}について、桜島や錦江湾への眺望場^{へと人々を導く}としてふさわしい、オープンな空間形成を図ります。

○方針3 国際観光都市鹿児島島の玄関口として、世界から観光客が訪れる質の高いまちなみの形成

- ✓ クルーズ船やスーパーヨット等によって、桜島や各離島に世界から観光客が訪れる質の高いまちなみを目指します。

○方針4 継続的なエリアマネジメントによる持続可能なまちづくりの実現

- ✓ グランドデザインの実現に向け、50年、100年先を見据えて、施設整備とともに、イベントの開催や情報発信など、本港区のアイデンティティや価値を高めるエリアマネジメントの取組を、関係機関や中心市街地が連携し持続可能なまちづくりを実現します。

○方針5 みなとの活動と地域資源を活かした魅力向上

- ✓ 離島航路の荷役活動や鹿児島旧港施設等の歴史的建造物は、鹿児島港ならではの雰囲気を感じられる魅力となっており、このような魅力を活かしながら、賑わいを創出します。

3. 鹿児島港本港区エリアの新たなまちづくり

方針2 県民が憩い親しむことのできる空間の形成

○方針2 県民が憩い親しむことのできる空間の形成

- ✓ 本港区を訪れる誰もが立ち寄り、本港区の賑わいの核をなす空間として、ウォーターフロントパーク~~について~~^{を中心に}、桜島や錦江湾への眺望場としてふさわしい~~、~~^{へと人々を導く}オープンな空間形成を図ります。

○ウォーターフロントパークエリアの利活用の方向性

(導入機能)

- 本港区の賑わいの核となる空間として、桜島や錦江湾への眺望場としてふさわしいオープンな空間の確保を基調に、低層建築や樹木、ストリートファニチャー等による休憩機能や日陰空間を配置することで、県民が日常的に訪れ、散歩やウォーキング等により癒やしや憩い、親しみや誇りを感じることのできる取組を行います。
- また、屋外型イベントスペースを確保し、エリアマネジメントを担う地元組織等との連携により、各種イベントやオープンカフェ、キッチンカー等の、ここでしか出会えない様々な切り口（テーマ）による魅力を発信する拠点形成を誘導します。



(空間形成)

- ウォーターフロントパークエリア及びドルフィンポート跡地の多目的広場については、一体的な空間形成を図るため、建築物や公共施設配置において~~ける~~^{加える}高さやデザイン等~~における~~^{による}ランドスケープ的な工夫や景観の連続性に配慮し、群としての景観形成を誘導します。

建築物や施設の高さやデザイン（ハコモノ等）の工夫（「高さ」が関連する話）と、ランドスケープ（緑地・広場、駐車場、道路等：高さがあまり関連しない話）が、一文のなかで混同している感じがしてすんなり理解できませんでした。推敲によって「高さやデザイン等」の話と「ランドスケープ的な工夫」を分け、その両方で景観の連続性に配慮する、という文の構成にはいかがでしょうか？

- ウォーターフロントパークについては、桜島や錦江湾の眺望を楽しむ視点場となっていることや、同様の視点場であるみなと大通りや朝日通の見通し線上に位置することを踏まえ、建築物や公共施設整備では、それらの位置関係や高さについての調和を図るとともに、それらの眺望を楽しめるオープンスペースやテラス状空間等の導入を誘導します。



3. 鹿児島港本港区エリアの新たなまちづくり

方針4 継続的なエリアマネジメントによる持続可能なまちづくりの実現

- 方針4 継続的なエリアマネジメントによる持続可能なまちづくりの実現
- ✓ グランドデザインの実現に向け、50年、100年先を見据えて、施設整備とともに、イベントの開催や情報発信など、本港区のアイデンティティや価値を高めるエリアマネジメントの取組を、関係機関や中心市街地が連携し持続可能なまちづくりを実現します。

○エリアマネジメントの取組

- 本港区エリアのまちづくりを進めるに当たっては、県・鹿児島市や港湾関係企業・団体、経済団体、中心市街地等の関係者が連携することで、本港区エリアの持続的な活性化につなげます。
(景観デザイン調整会議を発展させ)、継続的な景観マネジメントを行う体制をつくり、一貫性のあるエリアデザインを行います。と加えては？
- まちづくりでは、50年、100年先を見据え、「SDGs未来都市鹿児島市」に相応しい取組を進めます。

【参考】鹿児島市第2期SDGs未来都市計画より抜粋

2030年のあるべき姿

<都市像>

「つながる人・まち彩りあふれる躍動都市・かごしま」

- 私たちの目指すまちでは、人やまちの多様なつながりの中で、互いに支え合い、その英知を結集することで、地域社会に温もりと活力が満ちている。
- 豊かな自然と調和した環境の中、私たち市民は、子どもから高齢者まで、自分らしく健やかに生き生きと暮らしている。
- また、まちへの誇りと愛着を持つ人の輪が広がり、多彩な魅力が国内外に発信され、多くの人々を惹きつけ、交流とにぎわいを生み出している。
- そのようなまちの中で、次代を担う多彩な人材が生まれ、未来への希望にあふれている。

この「あるべき姿（＝都市像）」を実現するために6つの基本目標掲げる。

<基本目標>

1. 信頼とやさしさのある共創のまち【信頼・共創政策】
2. 自然と都市が調和したうるおいのあるまち【自然・環境政策】
3. 魅力にあふれ人が集う活力あるまち【産業・交流政策】
4. 自分らしく健やかに暮らせる安心安全なまち【健康・安心政策】
5. 豊かな個性を育み未来を拓く誇りあるまち【子ども・文教政策】
6. 質の高い暮らしを支える快適なまち【都市・交通政策】

4 グランドデザイン，コンセプトプランの実現に向けて 鹿児島港本港区エリアのマネジメント

- 鹿児島港本港区エリアでは，今後，北ふ頭エリア，南ふ頭エリア，桜島フェリーターミナルエリア，ウォーターフロントパークエリア，ドルフィンポート跡地エリア，高速船ターミナルエリア，住吉町15番街区エリア及び旧港湾合庁跡地エリアにおいて，鹿児島港本港区エリアコンセプトプランを基にしたまちづくりを進めることとなります。
- 本港区エリアのまちづくりを進めるに当たっては，県・鹿児島市や港湾関係企業・団体，経済団体，中心市街地等の関係者が連携することで，本港区エリアの持続的な活性化につながっていくと考えられます。
(景観デザイン調整会議を発展させ)、継続的な景観マネジメントを行う体制をつくり、一貫性のあるエリアデザインを行います。と加えては？
- 本港区エリアのまちづくりに当たっては，港湾機能の基本施設（岸壁，臨港道路等）以外は，民間活力の導入を基本とします。
- また，50年，100年先を見据え，「SDGs未来都市鹿児島市」に相応しい，SDGsの理念に基づく持続可能な本港区のまちづくりに沿った取組も進めます。
- 本港区エリアのまちづくりは，長い年月をかけて様々な活動を積み重ねていくことが必要です。
例えば，本港区エリアの情報発信，各敷地と緑地等が連携したイベントの実施，災害時などの共助，駐車場マネジメントなどの様々な取組とともに，天文館エリアや鹿児島中央駅エリアとも連携し，本港区エリアの価値を高めていきます。

